# みんな合わせれば700歳 黄金の笑顔が咲いた作品展

## 自分磨きの書道・手芸を楽しむ出品者たち

90歳代を中心とした高齢者らが、駅前総合案内所で初めての作品展を開きました。

出品した皆さんの晴れ舞台。記名帳には家族や友人、知らずに訪れた鑑賞者など80人以上の名前が書かれていました。

### 好きなこと、楽しむこと 人生の達人たちの作品展

7月8日～14日、駅前総合案内所の市民交流フロアで、書道・手芸作品展「わたしは忙しい今！～黄金の収穫期～」が開かれました。出品したのは90歳代を中心にした高齢者の皆さんです。

会期中、7人の出品者が会場を訪れ、誇らしそうに自分の作品を探したり、出品者同士で力作を称え合うなどしました。

手芸や書道を楽しみ、作りためた中からお気に入りを持ち寄って作品展に臨んだのは、テレビのCMで見るような〝元気はつらつ病気知らず〟というイメージのような人ではなく、杖をついたり、押し車にもたれたり、市内のデイサービスなどを利用している普通の高齢の人たちでした。

ただ一つ印象的だったのは、はちきれんばかりの笑顔を咲かせていたことです。

### 多忙も苦労も乗り越え 実りの日々を満喫中

作品展開催の話が持ち上がったのは5月ごろ。

針と糸を動かして手芸を楽しみ、足を踏ん張り立って筆で字を書く姿に、習字の先生やデイサービスの職員が「なんだか凄いぞ」と感動して沢山の人に紹介したいと思ったそうです。

一人では外出しにくい高齢者の皆さんにとってデイサービスに行く日は楽しいよそいきの日。おしゃれをして、お化粧もして、新聞やテレビでお喋りの話題を仕入れたりします。出掛けた先で友達や仲間に会い、お喋りに花を咲かせています。

書道や手芸は決まった日の決まった時間にあるので、参加している人たちは「子どものころは戦争で学校どころじゃなくてね、書道も新聞紙に書いて、真っ白な半紙に書かせてもらった事なんてなかったの。ここは書道の時間、裁縫(手芸)の時間、ご飯の時間と時間割があるから、まるで学生だった娘時代に戻ったみたいよ」と話していました。

そんな皆さんが、自分で楽しむだけではなく、家族や市民、いろいろな人が訪れる場所で作品を展示発表…恥ずかしくて誇らしくてワクワクする。駅前総合案内所の作品展が本格的に進みはじめると、皆の気持ちにも変化が出てきました。

作品展のために多くの出品者が選んだのは「令和元年」の書。4時代、3時代と年齢を重ねてきたからこそ、新しい時代の幕開けに立ち会えた歓びと感慨があるのではないか、と習字を教える田中 伊久男さんは言います。出品した高齢者たちは、取材に快く応じて作品を紹介しながら、人生の思い出を話してくれました。

笑顔を咲かせる手芸・書道などお気に入りの作　品を紹介する展示会に出品した高齢者の皆さんと書道の先生、田中（たなか） 伊久男（いくお）さん（右後ろ）

作品展の会場で仲間の作品も鑑賞

トメ、ハネ、真剣に書に向かって

針と糸でいろいろなカバンやポーチを作る

### 最高齢の出品者は98歳の村田（むらた） 加澄（かすみ）さん

「私の人生はドラマですよ。食べる物がなくてダイコンの葉を食べたり栄養失調になったりね。苦労の積み重ねだったけれど、過ぎたことや悪いことは忘れてしまうんです。だから、今はとても幸せです」と、人生の重さをさらりと笑顔で語っていました。